岩鼻古墳群（東松山市）

5号墳　岩鼻古墳群は岩鼻運動公園周辺に分布しており、このエリアは弥生時代後期の岩鼻式土器が出土した岩鼻遺跡として有名/前方は公園の駐車場入口

すぐ左手にマウンドがある/これが5号墳/円墳/北側から見たところ/反時計回りに見てみよう

北西側から見たところ

南西側から見たところ

南側から見たところ

そこで右手を見たところ

東側から見たところ

6号墳

これは5号墳の少し北西側に所在する6号墳/円墳/南東側から見たところ/反時計回りに見てみよう

北側から見たところ

北西側から見たところ

西側から見たところたところ/墳頂に小祠が立っている

これが墳頂の小祠

これは6号墳の傍にある石造物

アップで見たところ/「見ざる、聞かざる、言わざる」という三猿か

菅原神社古墳（岩鼻古墳群13号墳）

ここは公園の南側に所在する菅原神社

社殿

これは狛犬ではなく狛牛

社殿の左奥に菅原神社古墳（岩鼻古墳群13号墳)が所在する/円墳/5世紀代の古墳と云うが・・・/南西側から見たところ

墳頂が抉られて、横穴式石室が露出している

アッップで見たところ

西側から見たところ

北側から見たところ

ずっと退いて北側から見たところ/前方の菅原神社の小立の中に13号墳が所在する

さて、これは東松山市埋蔵文化財センターの岩鼻遺跡に関する展示

岩鼻古墳群から出土した蛇行剣について

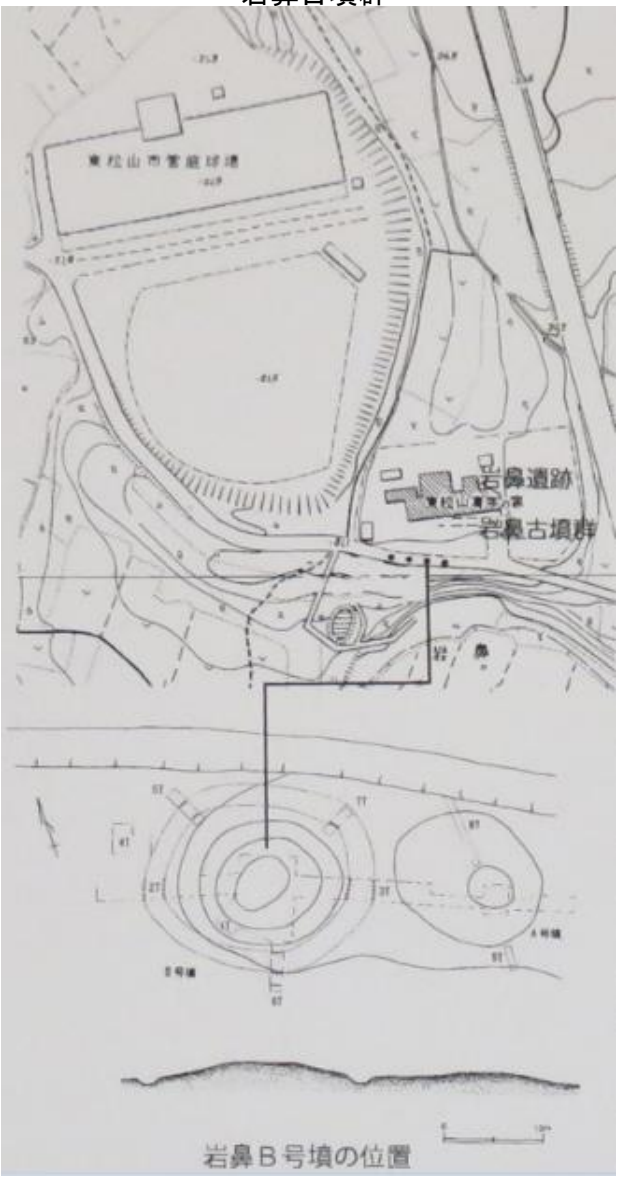
岩鼻古墳群～42年後にわかった蛇行剣～

1961（昭和36）年から1967（昭和42）年までの五回にわたる調査で、6基の古墳が調査されました。1968（昭和43）年の調査で馬形埴輪とともに全国唯一の造形を持つ「水鳥を冠した人物埴輪」が出土した古墳群です。「水鳥を冠した人物埴輪」が出土する三年前の1965（昭和40）年に調査されたB号墳からは蛇行剣が出土しました。B号墳は調査当時すでにほとんどが削平され、わずかに墳丘が残されている状況でした。出土当時、錆に覆われ、17点以上の破片になってしまっていたことに加え、関東地方において蛇行剣の出土例がなく、この鉄剣が蛇行剣であると認識されませんでした。その後場所を変えながらも大切に保管されたこの鉄剣が蛇行剣であると確認されたのは、1990（平成2）年頃から行われた保存処理によって錆などの余分な部分が落とされたことで、3か所の屈曲部分が明確になったためです。25年間大切に保存され、現代の技術を駆使してその真の価値が見出されたのがこの蛇行剣です。

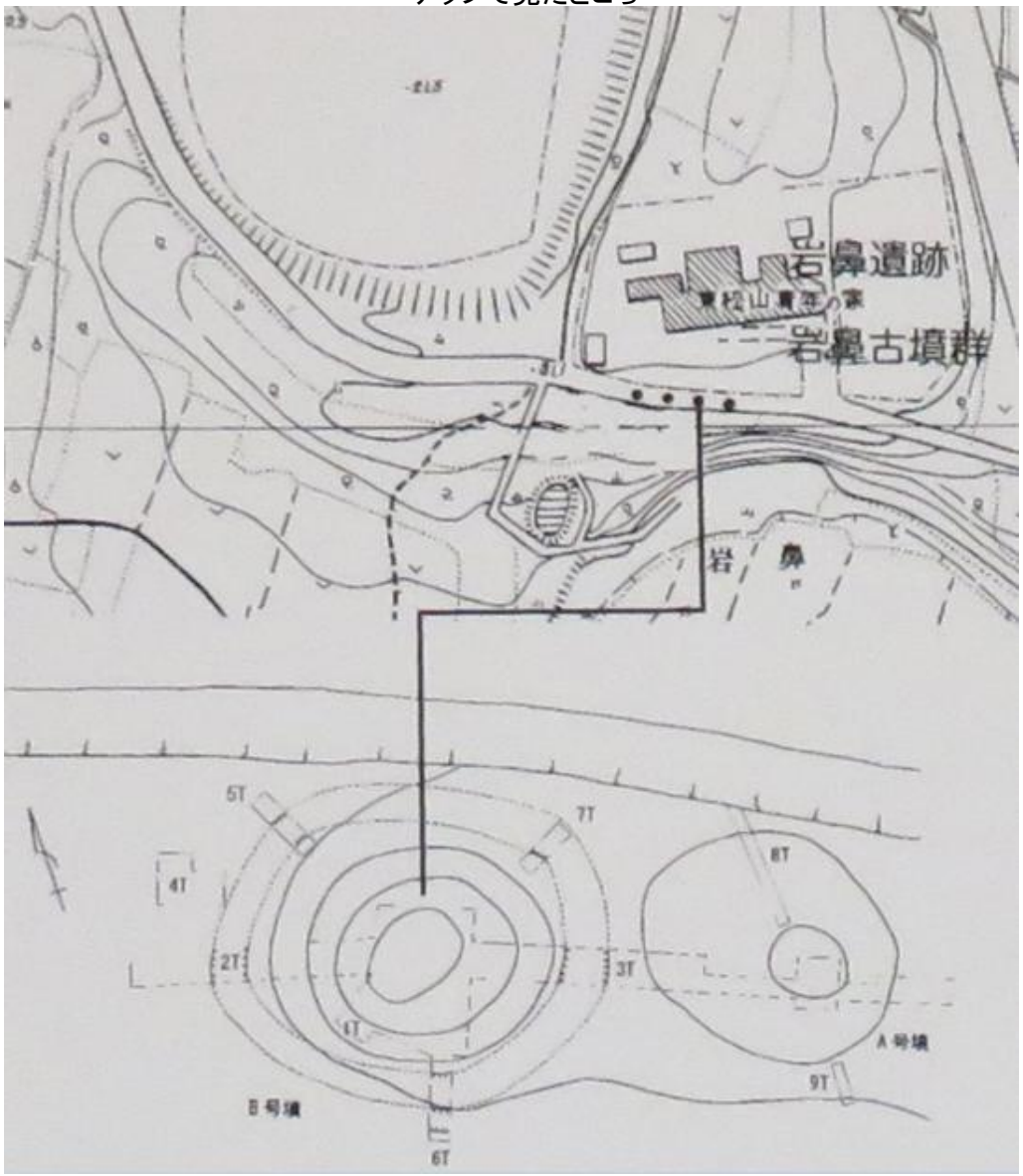
蛇行剣

岩鼻古墳群
蛇行剣
-岩鼻古墳群-
蛇行剣
蛇行剣は刀身が蛇のように曲がりくねっている日本列島独自の剣で、実用ではなく、儀礼用、あるいは所有者の権威を示す威信材として製作されたものです。南九州での発見例が多く、西日本を中心に各地で発見されていますが、関東地方より東では栃木県小山市の車塚57号墳のものと本市のもので計2例（平成20年時点）しか確認されていない希少なものです。

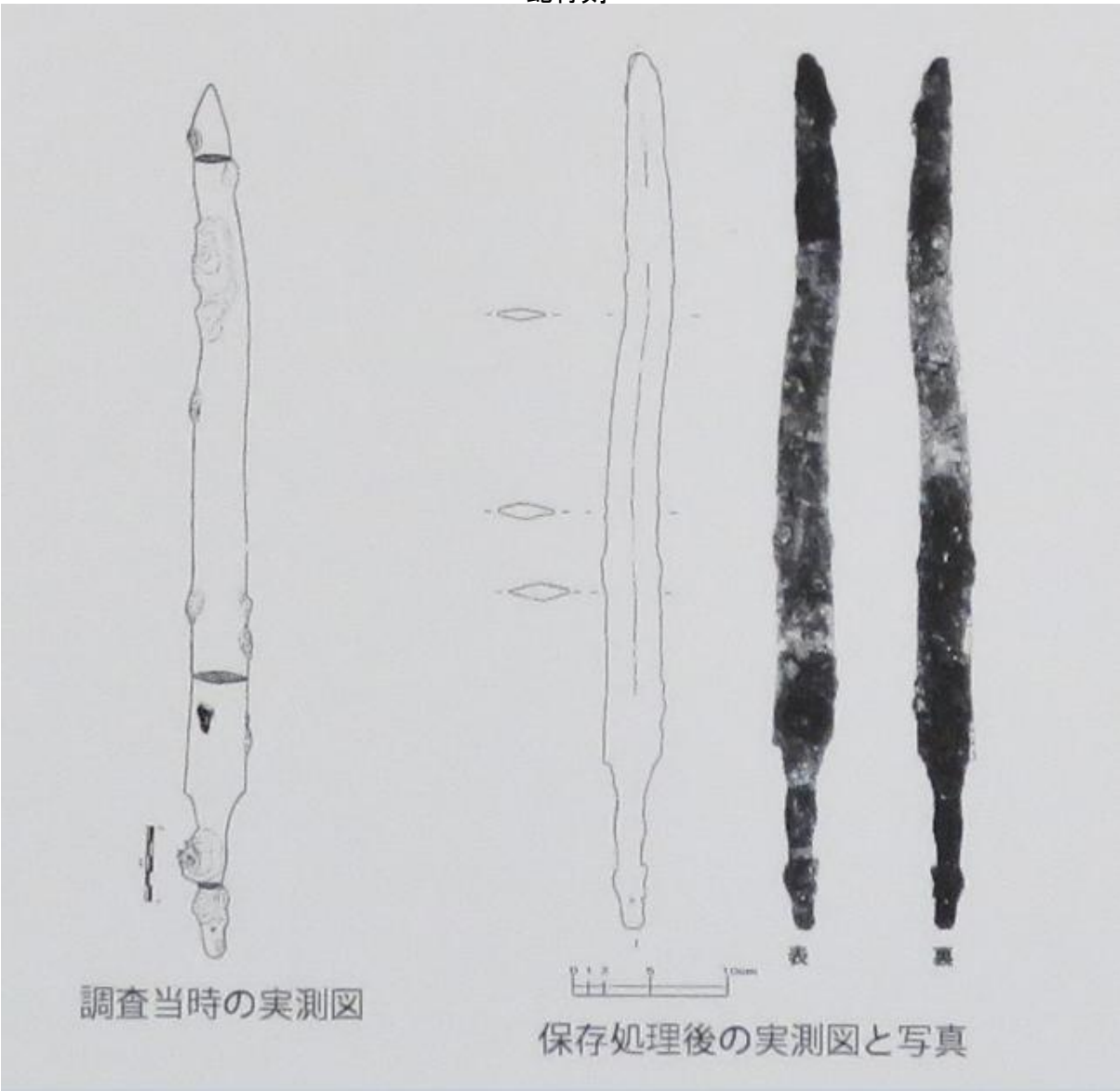
岩鼻古墳群



アップで見たところ



蛇行剣



比企丘陵を中心に分布する、弥生後期の土器である「岩鼻式土器」と「吉ヶ谷式土器」についての展示

岩鼻遺跡と吉ヶ谷遺跡～弥生時代後期の標式土器～

1963（昭和38）年から計4回にわたって実施された埼玉県立東松山青年の家（現きらめき市民大学）建設に伴う岩鼻遺跡の調査で出土した土器がのちに「岩鼻式土器」と命名される弥生時代後期の土器です。頸部から胴部上半にかけて櫛状の工具で波状文や簾状文を加えたことが特徴です。壺、甕、鉢、高坏、台付甕などの器種で構成されます。

その2年前の1961（昭和36）年、市内野田のゴルフ場予定地にあった古墳の復元作業中、作業のための用地から出土したのがのちに「吉ヶ谷式土器」の命名の由来となった弥生時代後期の土器です。口辺部から胴部にかけて比較的目の粗い縄文が施され、頸部に輪積み痕（土器を作るときの粘土の継ぎ目）をそのまま残しているのが特徴です。壺、甕、鉢、高坏、甑などの器種で構成されます。

高坂二番町遺跡出土の輪積み痕と櫛描文が共存する土器は岩鼻式から吉ヶ谷式への変化を示すものとされている/弥生後期を3期区分したときに1期が岩鼻式、2・3期が吉ヶ谷式の時代になると云う

「岩鼻式土器」と「吉ヶ谷式土器」の関係

「岩鼻式土器」「吉ヶ谷式土器」の発見は、南武蔵の弥生土器に対し、北武蔵独自の弥生土器文化があったことを示す重要な発見でした。出土当時、この二つの標式土器は、年代の違いとする考え方の他、使用集団の違いとする考え方など、様々な見解がありました。近年の発掘調査例の増加によって、岩鼻式土器→吉ヶ谷式土器との先後関係が明らかになってきたところですが、2006（平成18）年、高坂二番町遺跡（たかさかにばんちょういせき）第4次調査によって出土した土器は、岩鼻式土器の特徴である櫛描（くしがき）き文を有しつつ、吉ヶ谷式土器の特徴である輪積み痕を残すという両者の特徴を持っています。岩鼻式土器の最後でありながら吉ヶ谷式土器の最新の土器でもあるこの土器が発見されたことは、岩鼻式土器から吉ヶ谷式土器への時間的変化を明確に示すものとして注目されます。

参考ホームページ

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/34_mtym/iwahana1.html

https://ameblo.jp/fookky/entry-12310160452.html

https://saitamano.blogspot.com/2013/05/blog-post_17.html

https://plaza.rakuten.co.jp/narcisse/diary/201704150000/

http://www.ranhaku.com/web04/c3/2_02.html

プリマ食品㈱
沢口南公園
山市立市民病院
66
東松山陸上競技場
407
(株)吉見
ゴルフ
まつやま保育園
271
吉見町 西公民館
武蔵丘短大
総合グラウンド
役所
浄福寺
吉見百穴
東松山店
東武東上線
東松山市立新明小
407
249
66
東松山
東松山医師会病院